

JLEM News Letter Vol.42



第47回日本語教育方法研究会開催

発表 34 件 参加者 140 名
第 48 回は宮城教育大学にて

2016年9月24日(土)、第47回日本語教育方法研究会が日本学生支援機構東京日本語教育センター(東京都新宿区)で開催されました。平山先生、そして日本学生支援機構東京日本語教育センターの先生方、大変お世話になりました。

前日9月23日に運営委員会が開かれました。議事については、このレターの記事をご覧ください。

次回の第48回研究会は2017年3月18日に宮城教育大学(宮城県仙台市)において開かれます。会則の改訂に伴い、3月に地方での開催となります。みなさまふるってご参加ください。

開催を終えて

平山 允子
(日本学生支援機構東京
日本語教育センター)

第47回の研究会を無事に終えることができ、ほっとしております。当日は、悪天候の中、多くの方にご参加いただきました。ずいぶん大勢

いらっしゃるように見えるのは会場の狭さのせいかと思っておりましたが、閉会后、過去最多数のご参加があったと伺いました。JLEMの魅力が、多くの方に伝わり、広がり、ファンを増やしているのだと思います。研究会の実施に当たり、JLEMの委員の先生方には何から何まで優しく教えていただき、支えていただきました。また、研究会当日には、発表など自分のことで精一杯だった私を、委員の先生方に加えて、頼れる同僚達がひっそりと力強くフォローしてくれました。各教室では、ポスター発表に聴き入る同僚達の真剣な横顔も見られ、とてもうれしく、頼もしく思いました。私も東京日本語教育センターもJLEMに育てていただいていると、改めて強く感じた一日となりました。

このような素晴らしい機会をいただき、本当にありがとうございました。次回の宮城教育大学での研究会も、楽しみにしております。JLEMの益々のご発展を、心よりお祈り申し上げます。

次回開催にあたって

高橋 亜紀子
(宮城教育大学)

今回の研究会は宮城教育大学で開催します。本学は教員養成大学で、生涯にわたって自ら学び続け、その質的向上を目指す教員を育てるための教育・研究に力を入れています。留学生数も少なく、日本語教育のコースもありますが、「学び続ける教師」という点で実践を重視するJLEMとの共通点があると思います。

仙台では東北大学を筆頭に多くの留学生が学んでいます。日本語教育関係者として、日本語教育の実践に携わっている全国の皆様と交流できることを大変嬉しく思っております。

本学には昨年開通した地下鉄東西線でお越しくください。地下6階のホームから地上に出ると、東北大学のキャンパスが見えてきます。本学はその奥にある小さな大学です。学内には寮生のほかヤギやタヌキも住んでいます。クマが散歩していたこともある自然豊かなキャンパスです。

3月には東日本大震災からちょうど6年を迎えます。お時間が許せば、被災地にもぜひ足をのばし、復興の様子も見ていただければうれしいです。みなさまのお越しを心よりお待ちしております。

第9回 JLEM 優秀賞

第47回研究会において、以下の研究が「優秀賞」の授与対象として選ばれました。なお、今回は奨励賞の授与対象はありませんでした。

「優秀賞」 上原真知子・小熊貞子・広田妙子・山崎真弓・本郷智子（東京農工大学国際センター）「図・絵ですすめる農学系プレゼンテーション活動」

審査は、前回と同様、運営委員から選出された優秀賞選考委員5名の討議により行われました。

「優秀賞」の上原・小熊・広田・山崎・本郷氏の研究は、専門分野のプレゼンテーションのための教育という自身のニーズを独自の視点から設定した研究課題、そして丹念な検証を継続的に積み重ねてきた真摯な研究姿勢が高く評価されました。また、発表時の活発なやりとりから、同グループの発表が参加者に与えた影響力の大きさが感じられ、それが大きな評価に繋がりました。そして、ポスターの質も併せて評価を受けました。

受賞者のポスターは本会のHPに掲載されていますので、ぜひご覧ください。今回は残念ながら「奨励賞」の授与対象に選ばれた発表はありませんでしたが、JLEMでは審査員が賞の対象決定に迷ってしまうほど多数の意欲的な発表のご応募をお待ちしております。

(鹿嶋 彰)

運営委員会

総会報告

研究会当日の9月24日(土)午後には2016年度日本語教育方法研究会総会が開催されました。あいにくの天候にも関わらず、140名を超える方々にご出席いただき、また、40名の方から総会議事についての委任状もお送りいただきました。無事、総会として成立し、全ての議案について承認されたことをご報告いたします。

また、研究会に先だって運営委員会が9月23日(金)に開かれ、研究会当日の運営、総会議事について検討しました。今回12名の運営委員が参加し、参加できなかった委員からは委任状が提出されました。

以下、総会での報告事項、承認事項について報告致します。

①会員数

2016年9月24日現在の会員数は581名になりました。

②CiNii から J-STAGE への移行・会誌原稿の取り扱いについて

国立情報学研究所(NII)の学協会誌電子化事業が平成28年度(2017年3月)で終了することに伴い、2016年度の研究会誌からは、科学技術振興機構(JST)が運営するJ-STAGEへ移行することとしました。なお、印刷物として刊行する会誌原稿をJ-STAGE登録時に差し替えることはできませんので、ご注意ください。

③2015年度の決算について

2015年度は、会計年度の変更を行ったため、2015年1月1日から2016年3月31日までの1年3ヶ月の特別予算となりました。会計担当委員から2015年度の決算案の説明が行われ、承認されました。

④2016年度の予算について

2016年4月1日から2017年3月31日までの2016年度の予算案の説明が会計担当委員より行われ、承認されました。

⑤運営委員の交代について

以下の委員の就任、委員の担当変更が承認されました。

新任：畠山理恵さん(立命館大学)
2016年9月24日～2017年3月31日まで編集(会誌)担当委員
変更：俵山雄司さん(名古屋大学)
2017年3月31日まで編集(会誌)担当、2017年4月1日から企画・広報担当委員へ

⑥第50回記念研究会について

2018年3月開催予定の第50回研究会を記念大会とすることが提案されました。会員の皆様からの企画案を募集いたします。

(衣川 隆生)

事務局よりご連絡

○会員管理システム導入に伴う登録情報の確認

昨年度2015年10月にweb上での会員管理システム

<<https://secure.jlem-sg.org/>>が

導入されました。会員管理システム公開に伴い、今まで郵送しておりましたニュースレター、発表申込案内、研究会プログラムなどの印刷物の発送は停止しております。皆様のお手元に届くのは会誌のみとなります。今後は、みなさまの登録 e-mail アドレスへ、<jlem-ml@jlem-sg.org> からお知らせを届けます。<jlem-ml@jlem-sg.org> が迷惑メールとならないよう、ご指定をお願いします。e-mail アドレスを変更する場合は、速やかに会員専用サイトにてご自身で会員情報の変更をお願いします。

ご不明な点などありましたら、<jlem-ml@jlem-sg.org> までお問い合わせください。

○住所変更

JLEM では、会員管理システムに登録された会員住所に会誌を郵送します。住所変更の場合は、速やかに会員専用サイトにてご自身で会員情報の変更をお願いします。

(小河原義朗)

その他ご連絡

○会費納入について

会費をお振り込みいただいた方で、以下の方のお名前が会員名簿で確認できておりません。お心当たりの方は事務局までお知らせください。

2015/09/16 日付け 3000 円 振込み
「ナカヤマ エイジ」

2015/09/19 日付け 3000 円 振込み
「大野 裕」

(敬称略, 10月31日現在)
(長谷川守寿)

○J-STAGE についてのお知らせ

①現在, Vol. 23 No. 1 (2016年9月)の研究会誌を J-STAGE で公開するため、入力作業を進めています。早ければ、この秋から書誌情報のみが J-STAGE で公開される予定です。

②J-STAGE では、冊子体で掲載されたものと同じものを公開するという原則があります。冊子用の最終版が提出された後に、データの差し替えはできませんので、ご理解をお願いいたします。

(寺嶋弘道)

ご連絡先を お知らせください

下記の方々は当日入会をされた方ですが、入会手続きが済んでいませんので、JLEM日本語教育方法研究会 (<https://secure.jlem-sg.org/>) の「入会申し込み」より、申し込み手続きをして下さい。

なお、下記の方々の中に、お知り合いの方がいらっしゃる方は、恐れ入りますが、お伝えいただけますよう、よろしくお願いいたします。

高岡邦行 山方純子 鈴木聡子 藤田恭子 (敬称略, 10月31日現在)

(長谷川守寿)

日本語教育方法研究会

問い合わせ先: jlem-ml@jlem-sg.org

(レター編集: 本郷智子)